

平成26年度

社会福祉法人 開成町社会福祉協議会 事業報告

はじめに

開成町社会福祉協議会は、一人ひとりの声を大切に、生涯にわたる生活を総合的に支えるしくみをコミュニティワークの実践をつうじて築いていくこと、開成町らしさあふれる”共助”文化の創造をめざして、平成26年度は次の事業・活動に取り組みましたので報告いたします。

目次

福祉・企画 部門

01	自治会福祉活動の支援	2
02	ボランティア活動の推進(ボランティアセンター)	4
03	当事者活動の支援	7
04	広報啓発事業の充実	11
05	福祉教育事業の充実	14
06	事業推進体制の整備	17

福祉サービス 部門

07	総合相談・援護事業の充実	26
08	福祉サービスの利用支援	28
09	在宅福祉サービスの推進(介護保険外)	29
10	介護保険事業の推進	32
11	地域包括支援センター事業の推進	34

「目標達成度を計る指標」及び「目標値」は、それぞれ本年度当初（事業計画）に掲げる内容

1 自治会福祉活動の支援

自治会福祉活動サポート事業の実施

内容	暮らしに身近な小地域（自治会エリア）において、さまざまな人々が互いにたすけあい、交流できるようにする取り組み（自治会福祉活動）が、それぞれの地区にふさわしい創意と工夫を活かしたものと主体的かつ継続的に展開できるよう支援するために、サポート事業を実施しました（助成金の交付、地区担当職員の派遣等）。 具体的には、自治会福祉活動の推進に意欲的に取り組む自治会を実施主体とし、次のメニューのうちいずれかを、地区の特性を活かしてすすめました。		
期日	通年		
対象地区	岡野、金井島、上延沢、下延沢、円中、宮台、牛島、上島、河原町、榎本、中家村、下島、パレットガーデン *計13地区		
助成額	計1,479,000円（*1地区上限130,000円、平均113,769円）		
職員派遣回数	延86回（*全事業計/前年比7回増）		
サロン開催回数	延192回（*全13地区計）		
目標達成度を計る指標	ふれあい・いきいきサロンの開催回数	目標値	150回
成果	ふれあい・いきいきサロン等、自治会域それぞれの地域特性を踏まえた啓発活動と援助活動が、自治会福祉部を中心に当町らしい取り組みとして主体的に展開されています。福祉活動における住民自治（共助文化）の実現へ向け、本事業助成金が実効性をもって活用されています。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の固定化、事業のマンネリ化からの脱却 新たな福祉ニーズに着目した柔軟な事業展開視座の涵養 より生活支援型活動を意識した取り組みへのアプローチ強化 地区担当職員の地域福祉援助技術たるコミュニティワークのスキルアップ（情報収集・分析・提供能力等） 		

2 自治会福祉部連絡会等の開催

内容	各地区の事業進捗状況についての情報交換と今後の新たな活動展開及び課題についての意見交換等を行うために、連絡会と研修会を開催しました。 連絡会 開成町における自治会福祉活動のいまとこれから（説明） 開成町らしい福祉コミュニティづくりすすめよう（意見・情報交換） 研修会（活動事例発表） 発表者：南足柄市山崎地域福祉会、松田町ふれあい相談員、開成町牛島自治会福祉部		
期日	7月30日（水） 2月27日（金）	*計2回 *は足柄上1市5町社協合同	
会場	福祉会館 山北町立生涯学習センター		
参加者数	延19人		
目標達成度を計る指標	生活支援型事業へのアプローチ強化	目標値	実施
成果	主に各自治会福祉部長を対象に相互の情報・意見交換を行うべく開催しています。課題意識の共有化とその打開策模索の場として機能しています。		
課題	より生活支援型活動を意識した取り組みへのアプローチ強化		

3 地区別ふくし座談会の開催

内容	<p>自治会福祉活動支援の一環として、役職員が町内全地区へ赴き、住民の方々と膝を交えながらこれからの福祉のありかた等とともに話し合うことにより、福祉活動における自治の実現をめざしたさまざまな取り組みのより一層の充実・発展を図るとともに、開成町らしい福祉コミュニティ（共助文化）づくりに寄与することを目的として座談会を開催しました（*隔年開催）。</p> <p>説明 開成町のたすけあい活動はいま - 意見交換等 ずっとこのまちで安心して暮らしていくために - 疑問や不安を出し合って、解決へ向けてみんなで話し合います！ なお、全地区終了後、お寄せいただいたすべてのご意見やご要望をテーマ別に分類・整理し、「報告書」として発行しました。</p>		
期日	<p>9月27日（土/中家村）</p> <p>9月30日（火/パレットガーデン）</p> <p>10月08日（水/牛 島）</p> <p>10月11日（土/円 中）</p> <p>10月18日（土/岡 野）</p> <p>10月18日（土/下延沢）</p> <p>10月19日（日/上 島）</p>	<p>10月21日（火/河原町）</p> <p>10月24日（金/金井島）</p> <p>10月24日（金/宮 台）</p> <p>11月06日（木/榎 本）</p> <p>11月11日（火/上延沢）</p> <p>11月16日（日/下 島）</p> <p>*計13回</p>	
会場	当該地区の自治会館等集会施設		
参加者数	延327人（*1地区平均25.2人/前回（H24）比96人増）		
共催	開催地の自治会		
その他	隔年開催のためH27なし		
目標達成度を計る指標	参加者数 意見等の適切な反映	目標値	250人
成果	<p>前回（H24）より参加者数が大幅増となりました。これは組長会議の前後に設定される地区が全13地区中4地区あった影響と考えられます。</p> <p>住民各位が本来有している「福祉力」をいかに発露させられるか（エンパワーメント）を主眼として開催していますが、ご発言のひとつひとつから自治・共助意識の着実な醸成・高まりを実感します。</p> <p>前回（H24）から引き続きニーズとして多かった買い物等外出支援・移動手段としての「町内巡回バス」については、27年度から町受託事業として試験的にその運行を開始しています。</p>		
課題	<p>組長会議以外の単独開催地区における参加者の顔ぶれが自治会役員と福祉部員プラスアルファに矮小化されつつある傾向が否めないため、同傾向から脱却すべくオープン参加で公開性を高めるアプローチや真に福祉ニーズを抱える当事者の同席促進が今後の課題です。</p>		

2 ボランティア活動の推進(ボランティアセンター)

1 ボランティア講座の開催

内容	ボランティア活動に興味のある方々を対象として、知識の習得と住民の主体的な福祉活動であるボランティア活動への参加を促進することを目的に、ボランティア活動入門編としての各種講座を開催しました。		
	手話講習会(入門講座)		
期日	2月13日(金) 2月20日(金) 2月27日(金)	3月06日(金) 3月13日(金) 3月20日(金)	*計6回
会場	福社会館		
協力	手話サークルかたつむり、足柄上ろうあ福祉協会		
参加者数	延62人		
	傾聴ボランティア養成講座(入門講座)		
期日	1月14日(水) 1月21日(水)	1月28日(水) 2月14日(水)	*計4回
会場	福社会館		
協力	NPO法人シニアライフセラピー研究所 理事長 鈴木 しげ さん		
参加者数	延49人		
	足柄上地区ボランティア研修会		
期日	11月5日(水)		
会場	松田町健康福祉センター		
講師	* 講演 「今、ボランティアに知っていてほしい事」 講師：高橋 元央 氏(神奈川県社会福祉協議会地域支援担当課長) 講演 「ボランティア活動のリスクマネジメント」 講師：堀 江 陽 氏(損害保険ジャパン日本興亜株式会社) 挨拶：斉藤 英樹 氏(株式会社 福祉保険サービス)		
参加者数	参加者：68 職員等：11 その他：2 合計81人 8人(*当町からの参加者)		
共催	足柄上1市5町社協		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	75人
成果	手話講座では、知識技能の習得がすすみ、興味関心が深まりました。受講者の一部に協力いただいたサークルへ加入された方もあり、グループの機能強化にもつながりました。新たに傾聴ボランティア養成(入門)講座を開催できました。		
課題	・講座内容の固定化 ・受講者のフォローアップ(ボランティア活動へつなぎ)		

2 ボランティア活動交流会の開催

内容	町内外で活動するボランティアグループ等が集い、お互いの交流を深め、情報と課題を共有し、ボランティアネットワークの拡大を図ることを目的に、交流会を開催しました。グループの活動紹介、情報・意見交換等。		
期日	3月25日(木) H27年4月17日(金)		
会場	福社会館		
参加者数	5人(3グループ)		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	15人

成果	情報・意見交換が活発に行われ、他グループの活動に興味をもたれる等相互の理解が深まりました。 前回この場で出された意見（貸出口ッカー）について、新たに設置、周知することが出来ました。		
課題	・開催日時、内容の検討		

3 ボランティアグループ等の育成・支援

内容	情報提供等を行うとともに、活動費の一部を助成し、活動を支援しました。		
期日	通年		
助成数	9グループ		
目標達成度を計る指標	登録グループ数 活動状況の把握	目標値	15グループ
成果	地域で活動されている各グループへ活動費を助成し支援することにより、安定的・継続的に活動が展開されています。また、各グループの活動内容・状況等が把握できます。		
課題	財源の確保と助成対象グループの固定化。		

4 ボランティアセンター機能の整備・強化

内容	ボランティア活動に関する情報の整備・提供、相談及びボランティアの登録促進・育成等を行うことにより、ボランティアセンター拠点機能の整備・強化を図りました。		
期日	通年		
登録者数	グループ	11グループ（158人）	*計 188人
	個人	30人（うち、新規個人登録11人）	*前年比 1人減
目標達成度を計る指標	センター機能の充実・強化 新規登録者数	目標値	総合的な取組強化 10人
成果	ボランティア登録により、団体は福祉会館利用料金免除、個人はボランティア保険を本会負担で加入することにより、負担軽減が図られています。		
課題	登録団体・者の固定化とボランティアの高齢化。		

5 災害ボランティア受入・派遣訓練

内容	災害ボランティアセンターの運営訓練を、小田原市で行われたビッグレスキューかながわ（平成26年度神奈川県・小田原市総合防災訓練） 災害救援ボランティア支援センター設置運営訓練に、足柄上1市5町社協合同にて参画しました。災害発生数日後を想定し、同センターを開設するとともに、ボランティアの受付・調整・派遣・帰着の一連の流れに従い訓練（シュミレーション）を行いました。		
期日	8月31日（日）		
会場	小田原市川東タウンセンターマロニエ		
参加者数	7人（*当町からの参加者/職員、実習生）		
共催	足柄上1市5町社協		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	7人
成果	24～25年度と一部内容を変更し継続して訓練が実施できたことにより、災害ボランティアセンターの概要・運営方法等の理解がすすみました（24年度から足柄上地区社協連絡会事業として位置付け）。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・同連絡会事業として今後の継続実施の有無。 ・災害ボランティアセンター運営マニュアルの整備検討。 ・有事の際の社協間の連携体制の構築。 		

6 車イスダンス広域交流事業「にこにこの会」の開催

内容	障がいをお持ちの方とボランティアや地域住民が車イスダンスを通じて交流を深めることを目的に、交流事業を開催しました。		
期日	6月13日(金)		
会場	山北町生涯学習センター		
参加者数	9人(*当町からの参加者)		
共催	県西地区2市8町社協、西さがみ矢車草の会		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	10人
成果	2市8町の広域交流事業として多くの方に認知され、参加者からも楽しかった旨の声が寄せられました。		
課題	・26年度10回を迎え本事業は終了となりました。		

3 当事者活動の支援

1) 高齢者関係

1 ふれあい交流会の開催

内容	各種在宅福祉サービス利用者や心身障がい者地域作業所れんげの会々員などが一堂に会 する社会参加の機会を提供し、相互の交流と仲間づくりを促進するために、交流会を開催 しました。 昼食会 余興 ハンドベル/マザーズベル 歌 唱/ふれあい金曜会歌唱隊		
期日	5月17日(土)		
会場	福祉会館		
参加者数	156人		
主催	ふれあい交流会実行委員会(民生委員児童委員協議会、町社協)		
協力	開成町(福祉課、保健介護課)、婦人会、個人登録ボランティア、(株)クレシア開成工場、 AXコーヒー店、明治ゴムマイカー自治会駐車場・マザーズベル ミニデイサービスふれあい金曜会歌唱隊		
目標達成度を 計る指標	魅力ある内容への転換	目標値	充実
成果	外出機会と相互交流・ふれあいの場面、ボランティアグループの活動の場が提供できま した。 また、ふれあい金曜会の参加者及びボランティアスタッフがコーラス隊を結成し出演で きました。		
課題	・参加者対象者への案内(勧誘)について ・送迎を希望される方が多いため、今後、送迎をご家族に協力いただくなどの対応が必要 です。		

2 敬老会の開催

内容	第1部：式典(祝金品贈呈報告、敬老作文朗読他) 第2部：余興(酒田保育園園児による歌と交流・大鐘和子さんの独唱) 「敬老お祝いメッセージ」作品展示(開成南小学校児童) 司会/文命中学校		
期日	9月22日(月)*敬老の日		
会場	福祉会館		
参加者数	200人		
協力	開成町老人クラブ連合会・開成町民生委員児童委員協議会・開成町自治会長連絡協議会 開成町婦人会・酒田保育園・開成南小学校・文命中学校		
目標達成度を 計る指標	魅力ある内容への転換	目標値	充実
成果	幅広く関係団体に周知ができ、昨年より参加者を増やすことができました(40名増)。		
課題	・町との共催事業とはいえ、余興や式の内容、進行などに本会らしさを盛り込む必要があ ります。 ・幼稚園が輪番出演から外れるため新たな余興の開拓が必要です。 ・作文朗読は小学生2名・中学生1名から小・中学生各1名へ変更予定します。		

3 老人クラブ連合会の育成・支援

内容	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために、活動を支援しました。		
期日	通年		
会員数	983人(平成27年1月末)		

目標達成度を計る指標	会員数	目標値	1,050人
成果	1,020人(37人増/2月末)		
課題	就労されていたり、団体への加入が肌に合わない方もいるため、単位クラブの活動内容を多様化し、会員の増強する必要がある。		

2) 障がい児者関係

1 足柄上郡障がい者ボウリング大会の開催

内容	障がいをお持ちの方の社会参加を促進する事業の一環として、ボウリング大会を開催しました。		
期日	3月10日(火)		
会場	タイトーステーション小田原シティーモールクレッセ店(小田原市)		
参加者数	15人(*当町からの参加者)		
共催	足柄上5町社協		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	20人
成果	日頃ボウリングをする機会のない障がい者の方々へボウリングの機会を提供できました。		
課題	無料貸し切りができなくなり、招待事業ではなくなったため、負担金だけの運営が難しくなる事が予想されます。		

2 障がい児者ネットワーク会議の開催

内容	障がいをお持ちの方の生活を支援する一環として、関係機関・団体との情報の共有化と連携強化を図り、ネットワーク化をすすめるために、ネットワーク会議を開催しました。		
期日	2月18日(火)		
会場	福社会館		
参加者数	7人		
協力	身体障がい者福祉協会、心身障がい児者と家族の会かろがも、KOMNY地域作業所れんげ、地域作業所合力の郷、開成町(福祉課)		
目標達成度を計る指標	連携強化	目標値	充実
成果	開催時期を9月から事業がほぼ終了した2月へ変更したため、1年の活動内容の振り返りや、情報交換ができました。		
課題	身障協会は会員の高齢化と減少がみられます。		

3 身体障がい者福祉協会と心身障がい児者と家族の会かろがもの育成・支援

内容	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために、活動を支援しました。		
期日	通年		
目標達成度を計る指標	会員数	目標値	55人(2団体計)
成果	51名(2団体計) 身障協会への新規加入はないものの、かろがもについては毎年新規加入会員があります。		
課題	身障協会については賛助会員制度を検討中です。		

4 障がい者生活実態調査の実施（新規）

内容	障がいをお持ちの方の生活実態や施策・サービスへの要望等を把握し、課題や福祉ニーズを明確化するとともに、その解決へ向けて現行サービス改善の他、新規サービス創出のための基礎資料とするために調査を実施しました。		
調査期間	3月1日（日）～3月15日（日）		
対象	本会が情報一元化を主目的として作成・発行する「福祉対象者カルテ」において把握する障がいをお持ちの方のうち、無作為抽出した100人（郵送方式による配布・回収/回収率70.0%）		
その他	本事業は26年度のみ		
目標達成度を計る指標	実施とまとめ	目標値	まとめと反映
成果	<p>「今後必要と思われる福祉サービスは？」との設問に対する回答では、多い順に 医療・リハビリテーションの充実、 駅や道路の段差解消等のバリアフリー化促進、 住宅環境の整備となっています。</p> <p>また、「災害時に不安を感じることは？」との設問に対しては、「避難や広域避難所への移動時に適切に行動できるか」に最も多くの方が不安を抱かれている現状が明らかとなりました。</p>		
課題	本結果を町担当部局へつなげ、障がい福祉施策推進の参考としていただくことと併せ、本会として障がいをお持ちの方々の社会参加を促進するための新規事業を企画・創出し具現化します。		

3) ひとり親家庭関係

1 ひとり親家庭ネットワーク会議の開催

内容	ひとり親家庭の生活を支援する一環として、関係機関・団体との情報の共有化と連携強化を図り、ネットワーク化をすすめるために、ネットワーク会議を開催しました。		
期日	3月28日（土）		
会場	福祉会館		
参加者数	5人		
協力	母子寡婦福祉会つくしの会、足柄上保健福祉事務所、民生委員児童委員協議会		
目標達成度を計る指標	連携強化	目標値	充実
成果	関係機関相互の情報交換等により、当事者のニーズ把握や課題の共有化を図ることができました。		
課題	関係機関とのさらなる連携強化に向けた取り組みをすすめる必要があります。		

2 母子寡婦福祉会つくしの会の育成・支援

内容	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために、活動を支援しました。		
期日	通年		
目標達成度を計る指標	会員数	目標値	22人
成果	会員募集を目的にレクリエーションや料理講習会等を実施しました。また、昨年に引き続き、県母子連主催の行事へ参加し、他市町会員との交流を深めました。		
課題	年間を通じた会員募集の方法を検討していきます。		

4) 子育て支援関係

1 子育て中の親子のサロン「チビっ子らんど」の開放

内容	福祉会館の一室（2F娯楽室、教養娯楽室）と3F人工芝バルコニー（ひよこ広場）を開放し、おもちゃ図書館的な要素を加味した子育て中の親子のサロンとしてチビっ子らんどを設置し、自由に交流や情報交換ができるスペースを提供しました。 また、毎月第2水曜には、ぱたぱたママの協力によるおはなし会を開催しました。 さらに、子育て支援センター酒田保育園の協力により、子育て相談や保護者の仲間づくりの一助となるよう、毎月1回チビっ子サロンも併せて開催しました。		
期日	チビっ子らんど	毎週火・木曜（祝日除く）	
	チビっ子サロン	毎月1回木曜	
	ひよこ広場	通年	
会場	福祉会館		
参加者数	延882人		
協力	ぱたぱたママ、子育て支援センター酒田保育園		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	1,050人
成果	定期的なスペース開放とおはなし会の開催により、親子同士の交流・情報交換の場となりました。		
課題	広報紙等以外の事業PRの方法を検討していきます。		

2 新たな支援方策の検討（一部新規）

内容	子育て支援にかかる新たな支援方策について調査・研究しました。		
目標達成度を計る指標	成果のまとめ	目標値	まとめと反映
成果	近隣市町の子育て支援に関する事業の取り組み状況等の調査を行いました。		
課題	お子さんの一時預かりや外出時のサポート等は関係機関で行う既存の事業がありますが、妊産婦を対象にした家事支援については現状では取り組みがありません。ニーズ把握の上、実施に向けた検討をすすめます。		

4 広報啓発事業の充実

1 広報紙「社協だよりかいせい」と「かいせい社協かわら版」の発行

内容	本会の活動・事業のPRと福祉情報の提供、福祉意識の啓発・醸成のために広報紙を発行し、町内全世帯、賛助会員及び関係機関等へ配布しました（自主財源確保の一環としての紙面への広告掲載含む）。		
1) 社協だより（A4 / 8頁）			
発行日	5月1日（ 170 ） 7月1日（ 171 ） 9月1日（ 172 ）	11月1日（ 173 ） 1月1日（ 174 ） 3月1日（ 175 ）	*計6回
発行部数	5,400部（7月のみ5,700部）		
2) かわら版（A4 / 4頁）			
発行日	4月1日（ 89 ） 6月1日（ 90 ） 8月1日（ 91 ）	10月1日（ 92 ） 12月1日（ 93 ） 2月1日（ 94 ）	*計6回
発行部数	5,300部		
目標達成度を計る指標	分かりやすく親しみやすい紙面づくりの工夫	目標値	充実
成果	紙面表紙等に写真を多く配置するなど、親しみやすい紙面校正ができました。		
課題	掲載内容がマンネリ化しないよう、職員全体で掲載内容を検討します。		

2 社会福祉大会の開催

内容	永年にわたり社会福祉に貢献された方々の功績を称えるとともに、住民参加の福祉のまちづくりをめざして、社会福祉大会を開催しました。 神奈川県総合リハビリテーションセンター共催 式典 オープニングセレモニー / オカリナサークルアナベル 功労者等表彰・感謝、福祉作文コンクール等入選者表彰、福祉作文朗読等 アトラクション 車椅子バスケットボール体験講演会 / 湘南スポーツクラブ その他 ともしびコーナー（絵柄原画展、カレンダー配布）、福祉車両 各種機器展示体験・相談コーナー、各種当事者団体等活動紹介、共同募金		
期日	11月30日（日）		
会場	福祉会館		
参加者数	250人		
後援	開成町（福祉課）、開成町教育委員会、自治会長連絡協議会、民生委員児童委員協議会、婦人会、共同募金会開成町支会、神奈川県社協		
協力	開成小学校、開成南小学校、文命中学校、老人クラブ連合会、身体障がい者福祉協会、心身障がい児者と家族の会かるがも、母子寡婦福祉会つくしの会、KOMNY地域作業所れんげ、地域作業所合力の郷、フォートあしがら、(株)明治ゴム化成、オカリナサークルアナベル、足柄上法律事務所、湘南スポーツクラブ、アビリティーズケアネット(株)、近鉄スマイルサプライ(株)、合同会社アクティブショップまる、(株)766		
目標達成度を計る指標	魅力ある内容への転換	目標値	充実
成果	神奈川県総合リハビリテーションセンターとの共催により、日頃目にすることのない機器の展示、珍しい機器の体験コーナーを設けることができた。		

課題	来場者数を増やし本会をPRするため、式典形式からイノベーションが必要です。
----	---------------------------------------

3 ホームページの公開・更新

内容	本会の活動・事業のPRと福祉情報の提供、福祉意識の啓発・醸成のためにホームページを公開・更新しました（福祉会館各部屋の予約状況公開含む）。		
目標達成度を計る指標	アクセス数	目標値	3,300回
成果	27,827回 / 総アクセス（約9回 / 日 約290回 / 月 約3,500回 / 年）		
課題	アクセス数は順調に増えていますが、より見やすく親しみやすいホームページを目指します。		

4 地区別かいせい社協説明会の開催（会員加入の促進とのリンク）

内容	広報・福祉啓発の一環として、広く住民の方々の福祉への理解と関心を高めていただくために、本会の事業・活動を紹介するとともに、福祉情報の収集と効果的な提供機能を充実・強化していくことを目的として、自治会の組長会議等において説明会を開催しました。		
期日	4月13日（日 / 金井島） 4月19日（土 / 下延沢） 4月20日（日 / 榎本） 同（日 / 下島） 5月13日（火 / 河原町） 5月17日（土 / 岡野）	5月17日（土 / 宮台） 5月18日（日 / 上島） 6月14日（土 / 円中） 6月14日（土 / 牛島） 6月15日（日 / 上延沢） 6月15日（日 / 中家村）	*計12回
会場	当該地区の自治会館等集会施設		
参加者数	延379人 *前年比43人減（パレットガーデン中止）		
共催	開催地の自治会		
目標達成度を計る指標	参加者数 社協認知度の向上	目標値	350人
成果	前年度を43人下回る参加者数となりましたが、1自治会中止という開催1回減という現状から、1会場あたり31.58人のご参加をいただき、会員加入強化月間（7月）の前に、広く住民の方々の福祉への理解と関心を高めていただくために、本会の事業・活動を紹介することができました。		
課題	本会の事業・活動をすべて紹介するには、ボリュームが多過ぎていて、ご参加いただきました皆さまには焦点が薄れてしまうこともあります。住民の皆さまに伝えたいこと・住民の皆さまが知りたいことにポイントを絞って説明します。		

5 ともしびカレンダー作成（絵柄・標語コンクール）への協力

内容	ともしび運動の普及・啓発と併せて、福祉活動への主体的な参画意識を育むために、小・中学校の児童・生徒を対象として、ともしび運動推進協議会主催により行われるコンクールと入選作品のカレンダー化に協力するとともに、完成したカレンダーを公共機関等へ配布しました。		
募集期間	7～8月		
審査会期日	9月22日（火）		
応募数	1) 絵柄	2) 標語	
	小学生	7点	小学生 114点
	中学生	135点	中学生 31点
	*計	142点	*計 145点
作成部数	300部		
協力	開成・開成南小学校、文命中学校		

目標達成度を計る指標	応募者数	目標値	300
成果	絵柄は中学生から、標語は小学生から多く寄せられ、平成27年版カレンダーを発行できた。		
課題	平成26年度で事業終了		

5 福祉教育事業の充実

1 福祉ふれあい教育推進事業への助成

内容	<p>酒田保育園、酒田みずのべ保育園、開成幼稚園、開成・開成南小学校、文命中学校及び吉田島総合高等学校が各々実施する福祉ふれあい活動に対して助成するとともに、講師の派遣や情報提供等を行い、活動を支援しました。</p> <p>開成小学校4年生 ~ 総合的な学習の時間 ~ 公共施設見学（福祉会館） 同 ~ 共に生きる（視覚障がい者の誘導体験） 同 ~ 共に生きる（視覚障がい者との交流会） 開成南小学校4年生 ~ 総合的な学習の時間 ~ 公共施設見学（福祉会館） 同成南小学校4年生 ~ 総合的な学習の時間 ~ 共に生きる（手話体験） 文命中学校1年生 ~ 総合的な学習の時間 ~ 福祉体験（手話体験） 吉田島総合高等学校 ~ かるがもクリスマス会協力（フラワーアレンジメント） 同 2・3年生 ~ 福祉科社会福祉基礎福祉体験プログラム （誘導・点字・手話・認知症サポーター養成講座等）</p> <p>* 計13回</p>		
期日	通年		
助成数	4件（開成小学校2、開成南小学校1、文命中学校1、吉田島総合高等学校0）		
協力	ボランティアグループ四つ葉、手話サークルかたつむり、点字グループ若葉、地域包括支援センター、宮里隆太郎さん、長谷川リウ子さん、金井恵美子さん		
目標達成度を計る指標	支援回数	目標値	15回
成果	各校が希望する福祉教室のコーディネート（連携）ができました。		
課題	助成金交付申請を事前に提出いただき、局内で全体を査定して交付決定をします。		

2 小・中学生福祉作文コンクールの実施

内容	<p>作文をとおして社会連帯を基調とした福祉への理解と関心を深め、福祉活動への主体的な参加意識を育むために、小・中学校の児童・生徒を対象にコンクールを実施しました。審査会では、小・中学生の部それぞれに優秀賞3篇（町社協会賞、共同募金会開成町支会長賞、開成町教育長賞）、優良賞2篇、佳作5篇の各10篇を選出しました。また、入選作品を文集化し、小・中学校や社会福祉大会にて配布するとともに、入選された児童・生徒に朗読・発表いただきました。なお、上位作品を神奈川県福祉作文コンクール（神奈川県共同募金会等主催）に応募したところ、次の方が入選されました。</p> <p>小学生の部（佳作）：平野あかりさん（開成小5年）・竹内唯良子（開成南小5年） 中学生の部（佳作）：藤井美夕さん（文命中3年）</p>		
募集期間	7～8月		
審査会期日	9月16日（火）		
応募数	小学生	456篇 * 計	471篇
	中学生	15篇	
後援	開成町教育委員会		
協力	開成・開成南小学校、文命中学校		
目標達成度を計る指標	応募者数	目標値	450人
成果	多くの作文を応募いただき、作文集を発行しました。		
課題	中学生の応募が少ないため、より多くの生徒に応募いただくよう中学校へ依頼します。		

3 小学生ふくし一日教室の開催

内容	福祉施設における体験等とおして、障がいをお持ちの方に対する理解と関心を深め、他人を思いやるやさしい福祉の心を育むことを目的として一日教室を開催しました。施設見学、視覚・聴覚障がいに関する講話、点字・手話体験、聴導犬・盲導犬訓練デモンストレーション等。		
期日	7月31日(木)	8月22日(金)	
	8月20日(水)	*計3回	
会場	聴覚障がい者福祉センター(藤沢市)、神奈川県ライトセンター(横浜市)、日本盲導犬総合センター富士ハーネス(富士宮市)		
参加者数	延73人		
後援	開成町教育委員会		
協力	開成・開成南小学校、聴導犬育成の会、ボランティアグループ四つ葉		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	84人
成果	参加児童の多くから障がい者に会ったら優しく声をかけて助けたいとの意見があり、理解と関心が深まりました。		
課題	各コースの参加定員があり、参加できない児童もいるため、福祉会館を拠点とした参加体験型へ変更します(親子ふくし教室と統廃合)。		

4 親子ふくし教室の開催

内容	夏休み期間を利用し、子どもたちが福祉について考えるきっかけづくりとしてさまざまな体験機会を提供し、学校で行う総合的な学習の時間の取り組みにつなげるとともに、子どもたちだけでなく保護者層もともに体験することにより、自分自身や社会のあり方を考え、身近な地域の課題を解決できる力を育ていけるようにとの願いをこめ、ふくし教室を開催しました。誘導・車イス・手話・点字体験、自助具、福祉車両、福祉会館見学等。		
期日	8月24日(日)		
会場	福祉会館		
参加者数	54人		
後援	開成町教育委員会		
協力	ボランティアグループ四つ葉、足柄上ろうあ福祉協会、手話サークルかたつむり、福祉ボランティア点字グループ若葉、メディカルサービスおかもと、富士ライフサポート、神奈川県社協、かながわ自助具工房		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	200人
成果	目玉である盲導犬デモンストレーションの協力調整ができなかったため、参加人数が少なくなりました。		
課題	福祉会館を拠点とした参加体験型へ変更します(小学生ふくし一日教室と統廃合)。		

5 福祉教育関係者連絡会の開催

内容	福祉教育事業とボランティア育成事業との整理を前提として、福祉教育プログラムの充実と継続的な支援体制の確立及び学校等教育機関との連携強化を図るために、連絡会を開催しました。		
期日	6月19日(木)	2月17日(火)	
		*計2回	
会場	福祉会館		
参加者数	延17人		
協力	酒田・酒田みずのべ保育園、開成・開成南小学校、文命中学校、吉田島総合高等学校、開成町教育委員会		

目標達成度を計る指標	協働事業の創出・展開	目標値	実施
成果	本会から園・学校への依頼内容の確認や事業終了後の成果などを共有できました。		
課題	支援内容の精査、協働協力内容の確認を行います。		

6 資格取得のための学生等実習生の受入

内容	社会福祉士資格取得をめざす学生を、その実習先として受け入れました（社会福祉援助技術現場実習）。		
期日	通年（実習期間は1人あたり概ね1週間～1ヶ月）		
受入数	計5回（5人）		
目標達成度を計る指標	受入学生数	目標値	5人
成果	新規に受入依頼があり、対応いたしました（専門学校/10日間）。 通信教育実施機関の実習生は、社会福祉士資格が取得できたとの報告を受けています。		
課題	職員個々の業務の振り返り機会としているため、カリキュラムに従った実習内容の確立が必要です。また、受け入れに際した契約や謝金等の画一化が可能か検討していきます。		

6 事業推進体制の整備

1) 会務等

1 理事会の開催

内容	執行機関である理事会を、福祉会館にて6回開催しました。
期日	5月14日(水)
出席者数	理事：12人、監事：2人
議題	平成25年度事業報告について 平成25年度一般会計決算について 監査報告 平成26年度一般会計補正予算について 評議員の選任について その他
期日	6月2日(月)
出席者数	理事：12人、監事：2人
議題	正副会長の選任について 理事担当部会の選出について その他
期日	8月26日(火)
出席者数	理事：12人、監事：2人
議題	敬老会の開催について 共同募金の実施について 社会福祉大会の開催について その他
期日	10月3日(金)
出席者数	理事：11人、監事：1人
議題	社会福祉大会の開催について 敬老会の開催(反省)について 役員視察研修(町単・広域)の開催について その他
期日	12月10日(水)
出席者数	理事：10人、監事：2人
議題	平成27年度当初予算編成に伴う町補助金要求経過について かいせい社協改革推進会議の設置について その他
期日	3月18日(水)
出席者数	理事：11人、監事：2人
議題	就業規程の改正について 給与規程の制定について 福祉基金設置規程の一部改正について 退職手当支給規程の一部改正について 経理規程の改正について 平成26年度補正予算について 平成27年度事業計画について 平成27年度予算について
出席率	94.4%(*全6回平均)

成果	理事会への出席率は94.4%と高く、法人運営における事業執行の決定に積極的に参画いただいています。理事会における発言も建設的・発展的なものが多く、執行機関に相応しい活発な議論が展開されています（年6回開催は県西地区最多）。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の変化に柔軟に対応して問題提起を行い、見直し、立案から確定までのより積極的な役割の発揮 ・本会の公共的性格を高めるための広告塔的役割と関係機関・団体等との調整役の発揮

2 監事会の開催

内容	監査機関である監事会を、福祉会館にて3回開催しました。
期日	4月25日（木）
出席者数	監 事：3人
議題	平成25年度事業及び会計に関する決算監査
期日	9月3日（火）
出席者数	監 事：3人
議題	平成26年度（4～7月）事業及び会計に関する中間監査（第1回）
期日	1月16日（木）
出席者数	監 事：3人
議題	平成26年度（8～11月）事業及び会計に関する中間監査（第2回）
成果	中間含め年3回監査を実施することにより、定期的なチェック体制が構築されつつあります。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・監査提出資料（主に会計面）に工夫が必要。 ・事業執行状況の確認シートに工夫が必要。

3 評議員会の開催

内容	議決機関である評議員会を、福祉会館にて2回開催しました。
期日	5月26日（月）
出席者数	評議員：21人、理 事：4人、監 事：1人
議題	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度事業報告について 平成25年度一般会計決算について 監査報告 平成26年度一般会計補正予算について 役員の選任について その他
期日	3月25日（水）
出席者数	評議員：20人、理 事：4人、来 賓：2人
議題	<ul style="list-style-type: none"> 就業規程の改正について 給与規程の制定について 福祉基金設置規程の一部改正について 退職手当支給規程の一部改正について 経理規程の改正について 平成26年度補正予算について 平成27年度事業計画について 平成27年度予算について
成果	評議員各位から第三者性を有した活発な質問や意見等が寄せられ、最終議決機関に相応しいスタイルが確立されつつあります。

課題	発言者が固定化されるきらいがあるため、進行方法に工夫が必要です。
----	----------------------------------

4 理事担当部会（総務・事業）の開催

内容	理事担当部会（総務、事業）を、福祉会館にて計2回開催しました。	
1) 総務部会		
期日	9月22日（木）	
出席者数	総務部会担当理事等：5人、常務理事、事務局長	
議題	平成26年年度（上半期）の進捗状況について 法人運営課題と今後の事業展開について その他 *終了後、別途ともしびカレンダー絵柄・標語選考	
期日	3月9日（月）	
出席者数	総務部会担当理事等：4人、常務理事、事務局長	
議題	各種規程の制定及び改正について ・就業規程の改正について ・給与規程の制定について ・福祉基金設置規程の一部改正について ・退職手当支給規程の一部改正について ・経理規程の改正について 平成27年度事業計画（案）について 平成27年度予算（案）について 法人運営課題と今後の事業展開について その他	
2) 事業部会		
期日	8月21日（木）	
出席者数	事業部会担当理事等：4人、常務理事、事務局長、職員（1人）	
議題	敬老会の開催について 社会福祉大会の開催について その他	
期日	3月5日（木）	
出席者数	事業部会担当理事等：3人、常務理事、事務局長	
議題	各部門における活動・事業の現状と課題について ・福祉企画 部門 ・福祉サービス 部門 その他	
成果	役員各位が理事会とは別に本会運営について幅広くかつ率直に参画・議論できる場として機能しています。	
課題	出席率の向上。	

5 トップミーティング（経営者会議）の開催

内容	トップマネジメント構築へ向けた合意形成を図るために、正副会長、常務理事、事務局長の計5人（回目のみ6人／正副会長、常務理事、事務局長、事務局次長）によるミーティング（理事会開催前の事前協議等）を、福祉会館にて5回開催しました。	
期日	5月02日（金）	12月03日（金）
	8月08日（金）	3月10日（火）
	9月29日（月）	*計5回

成果	理事会に先立ち、本会全体のマネジメントについて協議し、コンセンサスを得る場として機能しています。
課題	本会の経営・運営方針や社会的使命、将来像、戦略の立案。

6 役員研修会の開催

内容	役員研修会を、2回開催しました。		
1) 役員視察研修会			
期日	11月17日(月)		
出席者数	理事：9人、監事：1人		
内容	“社協らしさ”を發揮したダイナミックな事業展開手法を先進事例に学ぶ ~行政計画との一体化、事業の見える化、住民の底力委員会、認知症サポーター養成等~ 視察先：愛川町社協		
2) 足柄上地区・西湘地区(2市8町)社協役員合同研修会			
期日	12月5日(金)		
会場	福祉会館		
出席者数	理事：6人、監事：1人(*当町からの出席者)		
内容	講演 介護保険制度改正に伴う社協への期待 ~地域包括ケアシステムの推進における社協の役割~ 講師：瀬戸 恒彦 さん(かながわ福祉サービス振興会理事長)		
出席率	56.7%		
目標達成度を計る指標	研修会への役員の出席率	目標値	75.0%
成果	1)については、後半の質疑応答時に参加された本会役員各位から積極的な質問が多数出されました。現在の本会の立ち位置及びその周辺事情を含め相对比较・議論ができたこと、役員各位の課題認識の共有化がすすんだことは大きな収穫です。		
課題	今後の持ち方として、内部研修と外部研修(視察)とを1年おき交互に企画・実施することにより、役員各位のさらなる資質向上に寄与したいと考えます。		

7 法人運営改革委員会の開催

内容	これからの地域福祉新時代をリードする新たな社協像を創造・構築すべく、法人運営を抜本的に見直し(テーマ毎集中的・多角的検討)、体質改善・組織改革へつなげることを目的として委員会を設置し(委員長：小澤 清司 本会副会長)、福祉会館にて7回開催しました(26年1月からの継続/全10回)。		
期日	4月25日(金)		
出席者数	委員：7人		
議題	組織及び財政について 給与及び退職金について 福祉基金について		
期日	5月9日(金)		
出席者数	委員：7人		
議題	組織及び財政について 給与及び退職金について 福祉基金について		
期日	6月20日(金)		
出席者数	委員：8人、オブザーバー：2人		

議題	給与及び退職金について 福祉基金について 会員募集について		
期日	7月22日(火)		
出席者数	委員：9人、オブザーバー：2人		
議題	給与及び退職金について 福祉基金について		
期日	8月27日(水)		
出席者数	委員：9人、オブザーバー：2人		
議題	PDCA及び事業評価制度について 退職金について		
期日	9月11日(木)		
出席者数	委員：8人、オブザーバー：2人		
議題	報告書のまとめについて		
期日	9月25日(木)		
出席者数	委員：9人、オブザーバー：2人		
議題	報告書のまとめについて		
目標達成度を 計る指標	報告書のまとめ(H26.09)	目標値	まとめと反映
成果	<p>開成町からの「開成町社会福祉協議会への補助金等検証委員会総括結果」(25年11月)を受けて、本会として体質改善・組織改革に着手する旨、同年12月町宛回答。同回答において、「経営戦略と評価システムの確立をめざした法人運営の抜本的な見直し」を緊急テーマとして掲げ、同テーマを解決・達成するための自律的検討組織として標記委員会を立ち上げ、検討を重ねました。</p> <p>本検討結果の内容を「法人運営改革委員会検討結果報告」としてまとめ、26年9月末付、町へ提出(回答)しました。同報告の内容(骨子)は、次のとおりです。</p> <p>開成町社会福祉協議会の在り方について 組織体制について 事務管理及び事業推進と評価について 財務管理について 給与・退職金について 会員加入の促進について 福社会館の管理について その他</p>		
課題	回答内容(委員会提案)の具現化を速やかにすすめることにより、真に信頼される組織へとステップアップさせること。		

8 かいせい社協改革推進会議の開催(新規)

内容	法人運営を抜本的に見直し、体質改善・組織改革へつなげるべく時限的に設置された「かいせい社協法人運営改革委員会」(25年12月-26年9月)においてまとめた「検討結果」の内容が、自律性と継続性をもって着実に実践・履行されるよう評価・モニターするとともに、必要な補正・助言等を行うことを目的として会議を設置し(委員長：小澤清司 本会副会長)、福社会館にて1回開催しました(28年3月までの継続)。		
期日	1月21日(水)		
出席者数	委員：6人		
議題	今後のすすめかたについて 個別テーマ毎の検討について その他		

成果	回答内容（委員会提案）が着実に実践・履行されるようチェック（担保）する内部組織としての役割発揮を期待し、設置しました。
課題	回答内容（委員会提案）の具現化を速やかにすすめることにより、真に信頼される組織へとステップアップさせること。

9 役員選考委員会の開催

内容	役員の任期満了に伴い、新たな役員候補者を選考するための委員会を、福祉会館にて1回開催しました。
期日	4月4日（金）
出席者数	選考委員（評議員）：8人
議題	1）役員（理事・監事）の選出区分等について 2）その他
成果	民主的かつ透明性ある運営へ向けた必要な手続きとして機能しています。
課題	協議体としてより多種の会員（団体・機関）から選出・応援いただくための工夫。

10 職員会議の開催

内容	職員の資質・専門性の向上と情報・課題意識の共有化を図るために、職員会議を福祉会館にて開催しました。		
1) 常勤職員ミーティング	期日 毎週1回 *会長・常務理事含む		
2) その他（居宅、通所、給食、包括 各部門別ミーティング）	期日 毎月各1回他		
目標達成度を計る指標	週1回以上の開催によるコミュニケーション強化	目標値	相互理解の深化
成果	専門職員間の情報・課題意識の共有化がすすみました。		
課題	・コミュニティワーク含む地域福祉援助技術等専門技術のレベルアップ。 ・各職員が抱える課題の共有化と職員間の意思統一。		

11 職員の資格取得促進と各種研修等への参加

内容	職員の資質・専門性の向上を図るために、神奈川県社協等主催による各種研修会・研究会に随時積極的に参加しました。
成果	各担当業務にかかる専門知識・技術の修得がすすみました。 職員1人が介護支援専門員の資格を取得しました。
課題	体系的研修プログラムの立案と計画的な受講。

12 新会計基準移行に向けた準備

内容	新会計基準への移行（H27.04～）に向けた準備をすすめました。		
目標達成度を計る指標	新経理規程・科目の整備	目標値	整備完了・移行
成果	新会計基準への移行（H27.04～）に向けて、西湘地区1市7町の社協において、同一の会計ソフトを導入することで、相互の情報交換や提供等が可能です。		
課題	経理区分及び勘定科目の改編・変更や会計ソフト変更に伴い、速やかに新年度の会計処理が移行しきれていません。		

2) 財源の確保

1 会員加入の促進と会員構成の拡充

内容	住民組織、公私社会福祉事業関係者をはじめ、幅広い分野からの参加を得、地域社会の総意を結集することとあわせて、社会福祉への関心の喚起、町社協への参加意識の醸成のために、一般会員は全世帯加入を、賛助会員は新規加入促進を各々目標に、町社協会員の募集と会費徴収を行いました。		
募集月間	7月		
加入結果	一般会員（一般世帯） * 年額1口500円～	3,900世帯（4,453口 / 加入率63.5%） * 前年比 11世帯減 65口増	
	同（各種団体） * 年額1口500円～	65団体（531口） * 前年比 1団体増 3口減	
	賛助会員（法人、企業等） * 年額1口3,000円～	139社（252口） * 前年比 2社増 3口減	
協力	自治会		
目標達成度を計る指標	一般会員（世帯）加入率	目標値	80.0%
成果	一般会員（世帯）は、前年比プラス32,500円となったものの、予算計上額、目標値、前年加入率実績にいずれも届かず、下回っています。 一般会員（団体）及び賛助会員についても、それぞれ前年実績を下回っています。		
課題	一般会員（世帯）については、当町の特徴である転入世帯の増加に伴う世帯数の伸びに会員加入率が連動して伸びておらず、これは特に転入世帯の構成比が高い地区においてその傾向が顕著となっています。また、加入いただいた世帯中、複数口（2口以上）加入いただいた世帯の割合は全体で12.2%となっており、これも地区・組ごとに偏りがみられることから、今後開拓の余地が残されています。次年度については、25年2月理事会にてとりまとめた「会員制度・会費についての考え方」中、「今後の取り組み方針・目標」にもとづき、その取り組みを着実に実践してまいります。なお、各自治会（組長会議）を巡回し開催する「かいせい社協説明会」においては、パンフレットをリニューアル作成し活用する等、より分かりやすい説明方法を工夫するとともに複数口加入を推奨します。 賛助会員については、職員が直接訪問・依頼したケースとDM送付・依頼したケースとでは呼応率に如実に差がみられることから、手間と時間はかかるものの可能な限り足を運びセールスすることとします。なお、その際には理事提案を受けて、次年度から新たに役員各位にも協力いただき、職員とともに数社程度ずつ訪問同行いただくこととします。		

2 寄付寄託者の拡大

内容	住民の皆さんから寄せられた善意の寄付金品等を受け入れるとともに、寄付寄託者の拡大を図り、自主財源の確保に努めました。 また、賛同いただいた企業や商店等に募金箱「善意の小箱」を設置させていただき、積極的に寄付金を募りました。		
期日	通年		
寄付件数	寄付金	61件	
	寄託品	12件	
	* 計	73件	* 前年比9件増
同 金額	一般受付分	904,955円	
	善意の小箱（* 設置協力店舗数：32店舗）	60,075円	
	* 計	965,030円	* 前年比374,043円減
目標達成度を計る指標	寄付金額	目標値	1,100,000円
成果	実績額は前年比減となったものの、件数は増となっています（広く浅く の傾向）。		
課題	寄付金及び寄託品の募集については、その結果を本会広報紙に都度掲載・報告していますが、積極的に寄付・寄託を募る等攻めの姿勢までは至っていません。本会が実施する地域福祉推進事業の財源としての活用状況含め、周知・PRに一層の工夫が必要です。また、企業各社が実施する社会貢献活動との協働も今後の課題です。		

3 福祉基金の増強

内容	果実（利息）等を自主事業の安定した財源とするために、寄付金収入等により福祉基金の増強に努めました。		
期日	通年		
積立等結果	本年度積立額	1,250,000円	
	同 取崩額	0円	
	累計	78,409,000円	
目標達成度を計る指標	位置付けの見直し (改革委にて検討)	目標値	方向性確立
成果	<p>21年度から続いていた財源不足による緊急避難的措置としての福祉基金の原資取り崩しは、今年度回避でき（その代替として通所介護事業積立金の別途取り崩し・補填あり）、さらには新たな積み増し（増強）ができました。</p> <p>なお、別途設置の改革委員会から「福祉基金の取り崩しを行う場合は、理事会・評議員会の各議決を得る旨の条文を追加すること」との提言を受け、福祉基金設置規程を一部改正しました</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基金と積立金の位置づけ（本来趣旨と役割、整合性）の明確化 ・原資取り崩しを極力抑えた法人財務体質の健全化 		

4 共同募金の実施

内容	神奈川県共同募金会開成町支会主管による共同募金に協力しました。 なお、お寄せいただいた寄付金は、赤い羽根共同募金分については神奈川県共同募金会へ全額送金するとともに、年末たすけあい募金分については一部施設への配分を除き、翌年度の町社協事業費として活用させていただきます。		
募金月間	10～12月		
同 結果	戸別募金	2,093,400円	学校募金 80,836円
	街頭募金	69,223円	その他の募金 153,325円
	法人募金	198,943円	*計 2,658,152円
	職域募金	62,425円	*前年比113,706円減
戸別募金協力	各自治会		
街頭募金協力	町長、町議会議員、民生委員児童委員協議会、KOMNY地域作業所れんげ、地域作業所合力の郷、吉田島総合高等学校		
目標達成度を計る指標	寄付金額	目標値	2,780,000円
成果	<p>戸別募金は着実に伸びているものの、その他が軒並み前年を下回っています。</p> <p>運動のPR的役割を果たす街頭募金については、多くの関係機関・団体の方々の協力をいただきました。</p>		
課題	<p>国民たすけあい運動の一環として実施される共同募金は、本会を含む民間福祉活動を資金面で支えるために重要かつ不可欠であることから、引き続き「たすけあいの心の普及」を基調とした各種募金活動を積極的に展開してまいります。</p>		

3) 連絡調整機能の充実

1 公私社会福祉事業関係機関・団体等との連携

内容	<p>公私社会福祉事業関係機関・団体等と連携し、協働事業の推進を図りました。</p> <p>なお、他機関・団体からの要請・依頼に応じ、本会役職員が着任・参画した委員会等は、次のとおりです。</p>		
	開成町 高齢者保健福祉事業運営協議会	委員	(事務局長)
	同 協働推進計画策定作業部会	同	(同)
	同 次世代育成支援対策地域協議会	同	(担当職員)
	足柄上郡福祉会(あしがら広域福祉センター)	評議員	(事務局長)

期日	通年		
連携先	開成町、自治会長連絡協議会、民生委員児童委員協議会、共同募金会開成町支会、ともしび運動推進協議会、NPO、近隣社協		
目標達成度を計る指標	連携・ネットワークの強化	目標値	有機的連携
成果	地域福祉推進のコーディネート役たる機能を柔軟に発揮し、関係機関・団体と連携しつつ、福祉のまちづくりをすすめました。		
課題	地域福祉推進における本会としての明確な将来像の確立と協働事業の具体的展開。		

2 福祉会館の管理・運営（*指定管理者制度事業）

内容	福祉会館の施設・設備の維持・管理並びに利用に伴う運営を行いました。また、利用案内等を広報紙に随時掲載し広くPRに努めるとともに、開成町とも連携を密にし施設利用の充実を図りました（本会ホームページ上にて福祉会館各部屋の予約状況公開含む）。 また、酒田・酒田みずのべ保育園及び開成幼稚園の園児、開成・開成南小学校や文命中学校の児童・生徒の絵画等作品を、年間をつうじて会館1F（ホール横）に展示しました。		
期日	通年		
利用回数	延5,119回 *前年比212回増		
同者数	延72,158人 *前年比4,070人増		
その他	詳細「資料1」のとおり		
目標達成度を計る指標	利用回数	目標値	2,800回
成果	利用回数、人数とも毎年微増傾向です。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの利用増をめざし、インターネット上からの予約を調査研究します。 ・本会独自事業の開催。 ・次期指定管理期間（H28-32）への準備作業。 		

3 民生委員児童委員協議会の運営・支援

内容	地域福祉推進のパートナーたる同協議会の事務局として、運営を支援しました。		
期日	通年 *定例会及び役員会：毎月各1回開催		
目標達成度を計る指標	活動日数（年延）	目標値	5,300回
成果	22年度から本会が事務局を担うこととなりましたが、両者の連携協働体制がより強化され、地域福祉活動の着実な進展が図られつつあります。また、24年度から受託した地域包括支援センター事業においても、各地区の民生委員児童委員との連携が発揮され、住民の安心に寄与できています。		
課題	予算措置がないものの、事務局運営の多様化とともに事務量が年々増加しています。		

7 総合相談・援護事業の充実

1 総合生活相談の実施

内容	住民の皆さんの日常生活上のあらゆる相談に応じ、関係機関との連携のもと、適切な助言と援助を行うことにより、福祉ニーズの問題把握から解決までの一貫した相談援助体制を確立するために、総合生活相談所を開設しました。 一般相談及び専門相談（法律・法務）。		
	1) 一般相談	毎月第2・4火曜	計22回
	2) 専門相談		
期日	法律	毎月最終00火曜	計12回
	法務	毎月第0・3土曜	計12回
	3) 特別法律相談会	11月30日(日)	1回
			*計47回
会場	福祉会館		
	1) 一般相談（相談員：民生委員児童委員）	2人/回	0件
	2) 専門相談		
相談員数及び同件数	法律（相談員：弁護士）	1人/回	21件
	法務（同：行政書士）	2人/回	21件
	3) 特別法律相談会		2件
			*計44件
同内訳	財産・相続	19件	家族 1件
	土地	10件	金融 2件
	離婚	4件	職業生業 1件
	事故	4件	福祉（障がい） 1件
	住宅（改修含む）	3件	その他 4件
			*計（重複あり） 49件
協力	民生委員児童委員協議会、横浜弁護士会、小田原行政書士会		
目標達成度を計る指標	相談受付体制の整備・強化	目標値	充実
成果	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に相談窓口を開設することにより、住民各位のいざというときの駆け込み寺的な安心感につながっています。 福祉ニーズのキャッチ（問題把握）ができます。 		
課題	開催期日・時間。		

2 生活福祉資金の貸付（*県社協受託事業）

内容	低所得、障がい、高齢者世帯等の生活の安定及び修学のために必要な資金の貸付と相談指導を行いました。		
期日	随時		
相談件数	41件（福祉資金15件、総合支援資金07件、臨時つなぎ資金01件、緊急小口18件）		
貸付件数	1件		
協力	民生委員児童委員協議会		
目標達成度を計る指標	相談受付体制の整備・強化	目標値	充実
成果	低所得、生活困窮者への支援により、生活安定へ向けた一助となっています。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 償還滞納者への対応 相談者（借受者）のフォロー（他サービスへのつなぎ） 		

3 小口（緊急）資金の貸付

内容	教育、自立更生、疾病治療、生活安定等のために緊急に必要な資金の貸付と相談指導を行いました。		
期日	随時		
相談件数	12件		
貸付件数	2件		
目標達成度を計る指標	相談受付体制の整備・強化	目標値	充実
成果	低所得、生活困窮者への支援により、生活安定へ向けた一助となっています。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・償還滞納者への対応 ・相談者（借受者）のフォロー（他サービスへのつなぎ） 		

4 年末たすけあい援護費の支給

内容	年末たすけあい募金（神奈川県共同募金会開成町支会主管）へ寄せられた寄付金の一部を激励金として町内2ヶ所の障がい者地域作業所へ配分しました。		
期日	12月20日（金）		
内訳	れんげ	100,000円 *計	120,000円
	合力の郷	20,000円	
目標達成度を計る指標	配分先・方法の見直し	目標値	実施
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・激励金としての配分により財政的支援が図られました。 ・配分先の活動内容等状況把握ができました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・配分先・額 ・各町社協間の対応方法の相違 		

* 交通遺児援護費及び災害見舞金は、今年度ともに支給対象なし

8 福祉サービスの利用支援

1 日常生活自立支援事業の実施（*県社協受託事業）

内容	判断能力が不十分な高齢者や障がいをお持ちの方の日常生活上の金銭管理、財産の保全及び福祉サービスの利用を支援するために、日常生活自立支援事業を受託・実施しました。		
期日	通年		
契約締結 審査会	奇数月第2木曜	*計6回	*足柄上5町社協合同設置・開催
相談件数	延431件		
訪問活動件数	延 86件		
契約者数	延11人（うち、新規2人 終了1人）		
支援員数	延 1人（非常勤職員）		
目標達成度を 計る指標	該当者への適切な支援	目標値	充実
成果	行政や地域包括支援センターとの連携により、必要な方への支援が適切に行なえました。また、必要に応じて他制度（成年後見）への移行もできました。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・契約者増と支援内容の多様化による支援員確保 ・本事業の対応範囲を超えるケースへの対応（判断能力低下） 		

2 福祉対象者カルテの整備・活用

内容	在宅での援助を必要とする高齢者や障がいをお持ちの方等の個別状況を把握し、適切なサービス提供へつなげることとあわせて、関係機関・団体との情報の一元化を図るために、名簿を整備し活用しました。		
期日	通年 *更新2回/年（9、2月）		
連携先	開成町（福祉課）、地域包括支援センター、民生委員児童委員協議会		
目標達成度を 計る指標	掲載者数	目標値	650人
成果	各種サービス等の利用者・登録者を網羅することにより、データの一元管理ができています。		
課題	・個人情報（プライバシー）保護による、カルテ掲載への拒否。		

9 在宅福祉サービスの推進(介護保険外)

1 福祉機器貸与事業の実施

内容	在宅で日常生活をおくることに支障のある高齢者や障がいをお持ちの方等に対し、必要とする福祉機器を貸与し、その在宅生活を支援しました。		
対象	高齢者または身体障がい者(要介護認定された方除く) 要介護認定され、介護保険給付サービス「福祉用具貸与」を利用する方(給付まで) 介護保険給付サービス「福祉用具貸与」の対象外の福祉機器を利用する方 一時的に負傷し、福祉機器が必要な方 町外在住の方を一時的に預かる方		
期日	通年		
利用件数	車イス	32件(27)	シャワーイス 3件(4)
	ポータブルトイレ	4件(10)	*計 41件(0)
	ベッド	2件(8)	*()は保有台数 *前年比9件減
利用者数	延35人(団体含む)		
目標達成度を計る指標	利用件数	目標値	100件
成果	一時的な利用の相談が多く寄せられ、必要時に利用いただけるよう対応しました。ケースによっては、別途サービスの提案と調整を行いました。		
課題	在庫機器のメンテナンスと管理方法の検討。		

2 ふくし移送サービスの実施

内容	歩行困難な高齢者や障がいをお持ちの方に対し、日常生活上の移動手段による利便提供として、ふくし移送サービスを実施しました。 *福祉有償運送対応事業		
期日	通年		
利用件数	1) 目的地別		
	足柄上病院	54件	白鷗医院 2件
	北小田原病院	26件	東海大大磯病院 2件
	たまご薬局	18件	県立子ども医療センター 2件
	神奈川リハビリテーション病院	12件	西湘病院 2件
	鴨宮衛生学園	9件	神奈川病院 1件
	草の家	6件	近藤整形外科 1件
	岡部医院	4件	鶴巻温泉病院 1件
	小田原市立病院	4件	太陽の門 1件
	安藤眼科医院	3件	*計 151件
	東海大伊勢原病院	3件	
登録者数	2) 内容別		
	通院	144件	*計 151件
	入所・退所(施設)	7件	*前年比35件増
	利用者	24人(うち、実利用者17人、新規10人)	
	支援者	4人(在宅福祉サポーター/運転業務)	
目標達成度を計る指標	利用件数	目標値	120件
成果	車椅子利用者の送迎希望が多く増えていますが、希望日における送迎について対応できるよう調整を行いました。		

課題	より利用しやすいサービスとなるよう要項の見直しと利用件数増に向けた周知を強化する必要があります。
----	--

3 軽度生活援助事業の実施

内容	65歳以上の高齢者のみの世帯等に対し、軽易な日常生活上の援助を行い、自立した生活の継続を可能にするため、軽度生活援助事業を実施しました。		
期日	通年		
利用件数	1) 派遣別		
	社会福祉協議会	403件	*計 439件
	シルバー人材センター	36件	
	2) 内容別		
	清掃、整理整頓	313件	洗濯・日干し 23件
	栄養管理(調理等)	217件	その他 30件
	庭の手入れ	35件	*計(重複あり) 676件
登録者数	買い物	58件	*前年比129件減
	利用者	15人(うち、実利用者数12人、新規6人)	
	支援者	3人(在宅福祉サポーター/ヘルパー)	
目標達成度を計る指標	派遣回数	目標値	650回
成果	新規相談及び定期利用の件数が伸びています。初回相談時や定期的にモニタリングを行うことで状態把握に努めました。		
課題	利用件数の増へ向けた事業のPR方法の検討と、在宅福祉サポーター/ヘルパーの確保をすすめる必要性があります。		

4 ミニ・デイサービス「ふれあい金曜会」の実施

内容	外出することの少ない高齢者がつどい、ふれあいのなかから相互の交流と仲間づくりを図ることにより、孤独感の解消と社会参加を促進するために、ミニ・デイサービスを実施しました。 おしゃべり、歌、散歩、レクリエーションゲーム等。 また、健康づくりの一環として、いきいき健康体操を毎回実施。アクセントイベントとしてあじさい見学や外食会を実施したほか、ゲスト等を招き、ともに楽しいひとときを過ごしました。		
期日	毎月第2・4金曜	*計23回	
	*7月11日(金) 悪天候・台風接近のため中止		
会場	福祉会館他		
参加者数	延438人(ボランティアスタッフ含む)	*前年比68人減	
協力	ミニ・デイサービスボランティア・スタッフ、杉の子会、秀駒会(三味線)、おむすびころりん(人形劇)、ライリッシュ・オカリナ、マザーズベル(ハンドベル)		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	550人
成果	外出することの少ない高齢者の外出の機会・楽しみのひとつとなっており、参加者ならびにボランティアの方々が、ふれあいのなかから相互の交流と仲間づくりの場となっています。		
課題	・送迎対応していないため、遠方の方の参加が難しい。 ・新たな参加者の開拓。		

5 レスパイト（障がい児者家族等の休息）サービスの実施

内容	養護学校等に通う児童・生徒の夏休み期間中に、障がいをお持ちの方を一時的に預かり、介護者の身体的・精神的負担軽減と、当事者の情緒安定等を図ることを目的として、レスパイトサービスを実施しました。 水遊び、歌、レクリエーションゲーム、散歩、工作、おやつづくり等。		
期日	7月28日（月）	8月11日（月）	
	8月1日（金）	8月25日（月）	
	8月4日（月）	*計5回	
会場	福祉会館他		
参加者数	延54人（ボランティアスタッフ含む）		
協力	開成町（福祉課）、民生委員児童委員協議会、吉田島総合高等学校、個人協力ボランティア		
目標達成度を計る指標	参加者数	目標値	80人
成果	登録いただいた利用者家族には身体的・精神的負担の軽減ができました。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・開設曜日に偏りがありました。利用者からの要望で月、金曜日以外にも開設します。 ・協力いただくボランティアの養成・育成を行い協力ボランティアを確保します。 		

6 買い物等外出支援方策の調査・研究・試行実施

内容	買い物等外出支援にかかる新たな支援方策について、町（企画政策課・福祉課）とともに調査・研究しました。		
目標達成度を計る指標	新たな外出支援事業の試行実施	目標値	実施
成果	平成27年度4月から試験的『町内巡回バス』が運行（本会受託）されるようになりました。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運行についての周知・案内を強化します。 ・ご利用者の方々の声（要望等）を今後の運行に反映していきます。 ・拠点（停留所）、運行ルートの充実。 		

10 介護保険事業の推進

1 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）の実施（“介護予防”居宅介護支援事業を含む）

内容	介護保険法等関係法令に従い、利用者に対し可能な限り居宅においてその有する能力に応じた自立した日常生活を行うために必要な居宅サービスが利用できるよう「居宅サービス計画（ケア・プラン）」を、また地域包括支援センターからの委託を受け、要支援の方の「介護予防サービス計画」をそれぞれ作成するとともに、当該計画に基づいて適切な居宅サービスまたは介護予防サービスの提供が確保されるよう、サービス事業者等との連絡調整及びその他の便宜を図りました。		
期日	通年		
契約者数	介護	78人 *計	83人
	予防	5人 *前年比2人増	
利用者数	介護	729人 *計	757人
	予防	28人 *前年比3人減	
その他	詳細「資料2」のとおり		
目標達成度を計る指標	プラン立案件数	目標値	700件
成果	前年度より職員体制の変更がありましたが、ほぼ同数のプランを立案することができました。また必要に応じ、関係機関等との調整・連携を図ることができました。		
課題	職員の資質・専門性向上と情報・課題意識の共有化を図るよう努めていく必要性があります。		

2 通所介護事業（デイサービス）の実施（“介護予防”通所介護事業を含む）

内容	介護保険法等関係法令に従い、利用者に対し可能な限り居宅で自立した日常生活を営むために、「介護」給付対象または「介護予防」給付対象となる機能訓練やレクリエーション、給食、入浴等の通所介護事業を一体的に行いました。 「介護」給付対象：要介護1～5、「介護予防」給付対象：要支援1～2。 プログラムメニューとしては、午前はタオル体操や歌、ゲームのほか、あじさい見学等の季節に応じた行事を、午後はカレンダーづくり等さまざまな作品づくりをつうじて、手指の訓練を目的とした創作活動をそれぞれ実施しました。		
期日	毎週月～金曜（国民の祝日・12月29日～翌年1月4日を除く） *計 242回		
会場	デイサービスセンター（福祉会館1F）		
契約者数	介護	28人 *計	32人
	予防	4人 *前年比01人減	
利用者数	介護	2,165人 *計	2,343人
	予防	178人 *前年比560人減	
その他	*一日平均9.68人（同前年比2.22人減） 詳細「資料3」のとおり		
目標達成度を計る指標	一日あたり平均利用者数	目標値	14.0人
成果	介護予防と機能低下防止の取り組みをすすめるとともに、介助員等の援助のもと、利用者相互の交流等をつうじて、住み慣れた自宅で可能な限り自立した日常生活を営むお手伝いができました。また、開成チャレンジデー2014にも参加いたしました。		
課題	職員がインフルエンザ感染したため、臨時休業（2日間）がありました。感染症等の対策を強化します。 ・定員充足率の向上 ・営業日の拡大（祝日） ・サービス提供時間の柔軟な対応		

3 介護保険事業利用者等意向調査の実施

内容	<p>本会が実施している介護保険事業（居宅介護支援事業・デイサービスセンター事業）のご利用者・ご家族の意向・要望等を把握し、今後のより質の高いサービス提供・運営体制に反映していくことを目的として、アンケート形式による調査を次年度に行う準備をしました。</p>		
期日	平成 27 年 4 月 1 日(水)～平成 27 年 4 月 22 日(水)		
目標達成度を計る指標	サービスに概ね満足している利用者の割合	目標値	95.00%
成果	<p>ご利用者様・ご家族様の利用における満足度を測るとともに、意向や要望等を把握することができました。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業において 制度・サービス内容等や利用方法について分かりやすい説明が行えるよう、職員の資質・専門性・能力の向上をはかる。 担当ケアマネージャー不在時においてもスムーズに対応できるよう、職員間の情報共有化をはかる。 ・通所介護（予防含む）事業において 土曜日や祝祭日の利用を希望される方が少数いられました。 当センターの他に事業所を利用されている方の選択する理由に「土日や祝日を利用したい」が挙げられていることから、営業日の拡大を検討します。 		

11 地域包括支援センター事業の推進

1 包括的支援事業の実施

内容	開成町が必要と認めた二次予防対象者に対し、心身機能の低下を防ぎ、いつまでも住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、健康状態や生活状況を確認し、必要なサービス提供や相談を行いました。		
1) 介護予防ケアマネジメント業務			
内容	要介護状態になることを予防するため、心身の状況に応じて対象者自らの選択に基づき、介護予防事業を効率的に活用できるよう介護予防プランを作成しました。		
プラン立案数	包括分	539件 *計	692件
	他事業者分	153件 *前年比21件増	
相談件数	延8,095件 *前年比800件増		
その他	要支援認定者の介護保険利用者数		692件
	サービス未利用要支援者へのアプローチ数		延24件
目標達成度を計る指標	介護予防プラン立案件数	目標値	670件
成果	要介護状態になることを予防するため、介護保険サービスのみならず保険外サービスも組み合わせながらプランの立案をいたしました。給付事務が発生しないため件数に加えておりませんが、住宅改修のみの相談にも対応しました(4件)。		
課題	平成27年度介護保険法改正の内容に応じた対応策の検討が必要です(当町は平成29年度まで対応は先送りとなっています)。		
2) 相談窓口・支援事業			
内容	相談窓口体制を強化し、介護保険に関するもののほか、高齢者の生活全般にわたる幅広い相談を受け付け、専門的・継続的な観点から必要なサービスや機関へつなぐ支援を行いました。		
相談件数	延2,239件(うち、虐待関係8件) *前年比1,182件増		
目標達成度を計る指標	相談窓口体制の整備・強化	目標値	充実
成果	相談件数は年々増加しています。他機関との連携を図りながら問題解決に向け対応しています。		
課題	職員体制が整わないため平成25年度から実施してきた窓口当番が設けられず、担当職員が不在の場合があります。相談カードを活用するなどの工夫はしています。		
3) 権利擁護業務			
内容	高齢者が安心して暮らせるよう、関係機関と連携を図り、権利擁護相談や高齢者虐待防止に取り組みます。		
相談件数	延177件(うち、虐待関係155件) *前年比118件増		
目標達成度を計る指標	連携強化と地域包括ケアシステムの構築へ向けた検討	目標値	充実
成果	他機関と連携しながら早期解決に向け取り組みました。		
課題	早期に他機関との話し合い場面の設定が必須と考えています。ケースに対応しながら、地域包括ケアシステムの構築に向け取り組んでいく必要性があります。		
4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務			
内容	医療機関との連携や介護支援専門員への後方支援、ネットワークづくりに取り組みました。		
相談件数	延496件 *他事業者からの相談件数	*前年比161件増	
その他	詳細「資料4」のとおり		

目標達成度を計る指標	居宅介護支援事業者連絡会の開催	目標値	4回
成果	連携強化を目的に平成25年度まで年1回開催でしたが、4回に拡大しました。平均20人を超える参加がありました。		
課題	多職種連携を目標に掲げ、共に資質向上を図っていく必要性があります。		

5) 任意事業の実施

内容	介護者の健康維持・増進と介護負担の軽減、適切な介護知識・技術の習得、地域住民への啓発に、開成町や民生委員児童委員協議会、自治会福祉部等と協力して取り組みました。		
	認知症サポーター養成事業への協力		
期日	8月24日(日) 11月26日(水) 1月23日(金)	*計3回	
会場	福社会館 吉田島総合高校		
参加者数	延132人		
目標達成度を計る指標	開催回数	目標値	3回
	介護家族教室・介護者のつどいの開催		
期日	7月29日(月) 2月13日(木)	*計2回	
会場	保健センター		
共催	町保険健康課		
参加者数	延24人(8人・ 16人)		
目標達成度を計る指標	開催回数 2回	目標値	4回
成果	高齢者を介護している家族等が、専門家(精神科医)から介護に関する知識や認知症高齢者への理解等について学ぶとともに高齢者を介護している参加者相互の交流・リフレッシュを図ることができました。		
課題	介護体験者からの体験談や参加された高齢者を介護している家族等が、さらに相互の交流を深められるような雰囲気づくりと企画を強化します。		

2 二次予防対象者把握事業の実施

内容	開成町が必要と認めた二次予防対象者に対し、心身機能の低下を防ぎ、いつまでも住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、健康状態や生活状況を確認し、必要なサービスや相談を行っていくことを目的として調査を実施しました。		
相談件数	延1,201件	*前年比232件増	
その他	二次予防ケアマネジメントの実施数 詳細「資料4」のとおり		延284件
目標達成度を計る指標	訪問による状況把握と対応策にもとづく介護予防の実施	目標値	充実
成果	介護予防支援計画表の作成は26件です。計画表立案までは及びませんが必要性に応じた計画、保険外サービスや二次予防事業の紹介、参加や利用促しをしました。		
課題	平成27年度介護保険法改正に伴い、介護予防支援計画の立案数が大幅に伸びるものと予想されます。職員体制を早期に確立し、平成29年度の移行に合わせた対応策の検討が必要です。		

3 その他

内容	地域ケアねっとワーク会議、 町（保険健康課）との連絡調整会議、 部門間ミーティングを毎月各1回開催
期日	毎月第3火曜日 *計 12回
会場	福祉会館
その他	詳細「資料4」のとおり
成果	7月よりケース検討を中心に開催しました。検討内容をもとに地域包括ケアシステム構築に向けた視点を持つよう努めました。
課題	多職種連携による検討会の意味合いを再確認していく必要性があります。平成27年度介護保険法改正の内容を踏まえ、社会福祉協議会に設置する「生活支援コーディネーター」との連携を密に図り、地域包括ケアシステム構築に取り組んでいきます。